

米山奨学委員長会議および カウンセラー研修会

米山奨学委員会 委員

島井 宏子 (大阪北梅田RC)

日 時:2012年7月28日(土)

会 場:大阪薬業年金会館 301号室

出席者:ガバナー 高島凱夫、米山奨学会副理事長 近藤雅臣、米山担当顧問パスト・ガバナー 若林紀男、地区研修委員 磯田郁子、地区代表幹事 村橋義晃、地区副代表幹事 杉村雅之、地区米山委員10名、各クラブ米山奨学委員56名(含代理)、カウンセラー23名、参加者計95名

2012年度米山奨学委員長会議およびカウンセラー研修会は、7月28日午後2時より大阪薬業年金会館に於いて上記95名のご出席を頂いて開催されました。司会進行は福田地区委員が担当させていただきました。

来賓紹介と資料確認に続き、高島Gより「本日の研修会では、各々の役割をご理解頂き、活動に役立てて頂きたい。米山奨学会は平和な日本の木を世界に植樹し、平和と世界理解の推進に貢献しています」とのご挨拶を戴きました。

続いて、米山奨学会副理事長近藤PGより『米山奨学会の今後の展望』と題して、「米山奨学生の同窓会である学友会も、海外においても台湾・韓国・中国に続いて今年はタイで発足。ネパールでも5番目の学友会が出来つつある。その根底にある奨学生の感謝の気持ちに応えるためにも、日本での学業を十分に支援出来るだけの奨学金を毎月手渡すことが必要。決して寄付金が少なくなったからと言って、一人当たりの奨学金を減らしても良いものではない。元々は優秀であり、日本で学びたいが余裕がなく来日出来ない人を現地採用することが原点であった。卒業後どこの地にあってロータリー精神を理解して役立てる人に成長するよう支援・助言して頂きたい」などのお話を戴きました。

次に、田中委員長より「米山奨学会は、知的な国際貢献度の高いものである。決して見返りを求めるのではなく、日本の良き理解者を作り、寛容な態度でその結果を待っていただきたい。『ロータリアンによる日本のファン作り』と位置づけ、個人の成育を知り、教育の基本である良きサ



ポートを適時与えてくださる事をお願いしたい。これに先立ち、先日は大学との意見交換会を開き、学業・人格共に優れ、ロータリアンが真に物心両面の支援をしようと思える学生を推薦して下さいと、今後、米山奨学事業への理解もロータリアン・奨学生両方から得られ、会も発展する、という点で互いの立場を確認した。尚、今年度は1カ国50%までという比率で受験生の選考をして頂く事で了承を得た」等の報告とお願いをさせていただきました。

続いて、各クラブの委員長を5グループ、カウンセラーを2グループに分け、それぞれのテーマで約70分討論して頂きました。

委員長グループ:ロータリアンの米山奨学事業の理解を深め、寄付金を増やすにはどうすればいいか?

カウンセラー:奨学生の世話で困ったこと、良かったこと

今年度は、討論に十分な時間を割くために、討論後の発表を省略しました。後日、グループ書記より提出して頂いた内容をまとめ、又、ご質問等には出来る範囲の答えを添えて各クラブに送信させていただきました。

講評として、地区米山奨学委員会顧問 若林PGより「高島Gの米山事業へのご理解も深く、又、本日集られた皆様の熱心な討論に米山事業の今後が楽しみです」とのお言葉を戴きました。

最後に、西谷副委員長より、例年以上の猛暑の中ご出席頂き、最後までご清聴、また熱心なご討議を頂いたことへのお礼の挨拶で、約2時間に亘る研修会を閉会させていただきました。

